

宮中から大名、そして庶民へと 広まったお雛様

江戸時代には開かれていた名古屋の雛人形市

女の子の健やかな成長を願い、桃の花が咲く頃の旧暦3月3日に雛人形が飾られます。節句とはもともと日本における暦の一つで、1月7日の「人日」、3月3日の「上巳」、5月5日の「端午」、7月7日の「七夕」、9月9日の「重陽」の五節句がありました。かつては宮中ではさまざまな行事がおこなわれていましたが、そのうちの5つを江戸時代に幕府が公的な行事として決めました。桃の節句も春から夏への季節の変わり目に、紙を人形に切り抜いて川へ流し、穢れを払う風習と女の子の人形遊びが結びつき、人形を飾るようになったといわれています。雛人形は大家などでは婚姻道具の一つになり、庶民の間へも雛飾りが広がっていきました。そして現在のような形式が整えられました。

江戸時代後期には名古屋でも「雛市」が開かれていたとされます。明治には名古屋雛玩具組合が結成されました。

国の伝統産業品指定のため研究も

戦争中は活動を停止していた組合ですが、昭和22



年に愛知県雛人形文化協会として再出発します。雛人形



は男性と女性以外にも三人官女、五人囃子といった人形や小道具、ぼんぼり、嫁入り道具なども飾られます。そこで分業化が進みました。昭和20年代から始まった愛知県玩具卸商業協同組合が主催する展示会のコンクールでは、愛知県雛人形文化協会の作品が優秀作品に選ばれるようになりました。

愛知県雛人形文化協会は昭和39年に中部人形節句品工業協同組合となり、現在は中部人形節句品コンクールを主催しています。平成元年に名古屋市で開催された世界デザイン博でも雛人形の製作実演をおこないました。また、平成22年に中国でおこなわれた上海万博にも出品しました。

雛人形は親よりも祖父母が孫のために購入する事例が多いのですが、マンションなどでは雛人形を飾るスペースが思うように確保できなくなっています。また、人形自体も小型化し、かつてのような豪華なものは少なくなっています。組合では雛人形に

についての良さと伝統伝承文化のすばらしさについて見直してもらおうと、経済産業大臣指定伝統工芸品の指定を得るため、名古屋における雛人形づくりの歴史などについて研究をしています。

DATA ■中部人形節句品工業協同組合
所在地：西区新道2-15-17 愛知県菓業会館

- ・明治時代：名古屋雛玩具組合
- ・昭和22年：愛知県雛人形文化協会を設立
- ・昭和39年：中部人形節句品工業協同組合に改組
- ・平成22年：上海万博に出品